

## 〈報告〉

## 順天堂大学スポーツ健康学部生の飲酒意識調査(2): アルコールへの意識, 飲酒教育のあり方, アルコールと運動

高清 祐加\*・河合 祥雄\*

Attitudes of college students towards alcohol consumption at School of  
Health and Sports Science, Juntendo University (2)

Yuka TAKASE\* and Sachio KAWAI\*

### 1. はじめに

競技種目によっては, アルコールはドーピング対象薬物として禁止され, 多くのスポーツでは飲酒中・飲酒後の実施は控えられている. スポーツをしている学生が大多数を占める本学部では, 日常的な飲酒を控えている競技者も多いが, 「打ち上げ」などで飲酒を強要されるもの, 飲酒習慣を獲得してしまうものもあると考えられる. アルコールハラスメント防止キャンペーンを有用なものにするためにも, 体育系大学生が飲酒に関してどのような意識をもち, どの様な自己管理をしているかの実態調査は不可欠である. 本学学生が持つ問題意識, 自己管理の内容を明らかにすることは, 飲酒による体調不良やパフォーマンス低下を軽減するための指標となり得る.

改変した「飲酒に関する大学生の意識調査」<sup>1)</sup>のアンケート調査用紙を用い, 本学学生の飲酒意識調査を行い, 飲酒実態の把握と問題点及び改善点を見出すことを目的とした.

### 2. 対象とアンケート配布・回収方法

順天堂大学スポーツ健康科学部1年生は啓心寮に居住者を対象として, 2009年11月19日に, 2年生は「スポーツ医学(内科)」の授業を受講している168人のうち2009年11月12日に出席した学生を, 3, 4年生は各所属ゼミナール学生に対して, 2009年11月10日にアンケートを配布し, 1年生は啓心寮にて, 2年生は授業時間内に, 3, 4年生は健康管理室にてアンケートを回収した.

### 3. 方 法

意識調査は無記名アンケートとして, 「飲酒に関する大学生の意識調査」(眞崎睦子: 北大生101人と飲酒: 「飲酒に関する大学生の意識調査」(2007年) 北海道大学大学院教育学研究院紀要103巻掲載のアンケート調査用紙を改変した)を用い, 飲酒経験, 飲酒強要・被強要, 飲酒教育, アルコール体質, 運動頻度などを調査した. 追加した項目は, 現在の競技に対する取り組み方(真剣度: Visual analog scaleで0-10までに数値化), 週あたりの練習日(日), 一日あたりの練習時間(時間), 運動(練習や実技授業)や, 試合の前日にアルコールを控えかどうかの項目であり, 削除した項目はAA(Alcoholics Anonymous), Al-Anon, 断酒会に関する項

\* 順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ医学研究室  
Research Laboratory of Sports Medicine, School of  
Health and Sports Science, Juntendo University.

目(Q17-Q22)である。

本調査は、「体育系大学生の飲酒意識調査および主観的アルコール濃度判断に関する検討」(順大ス倫第21-5号)(研究代表者:河合祥雄),および「体育系大学生・院生の飲酒意識調査」(順大ス倫第21-12号)(研究代表者:河合祥雄)として,研究倫理等審査を経ている。

配布枚数は啓心寮の学生数である331枚,授業に出席した2年生に対して136枚,3,4年生のゼミナール所属人数である663枚の計1130枚であった。アンケートの回収は2009年11月30日で締め切り,それまでに回収できた713枚について検討を加えた。

#### 4. 結 果

アンケートの回収は,1年生280枚,2年生129枚,3年生162枚,4年生142枚の計713枚であった。そのうち有効回答と考えられた1年生227枚(81%),2年生117枚(91%),3年生131枚(81%),4年生127枚(89%)の計602枚(86%),602名分を調査の対象とした。無効回答数は,1年生53枚(19%),2年生12枚(9%),3年生31枚(19%),4年生15枚(11%),計101枚(14%)であった。

以下にアルコールへの意識(表1-3)飲酒教育のあり方(表4-5),アルコールと運動(表6-8),注目された自由記載意見を示す。

##### 4-1 アルコールへの意識

回答者の飲酒状況についての設問に続き,回答者が「酒」および「飲酒をしている人」をどのように認識しているかについての設問が以下の表1から表3である。

上記の表3は複数回答可の設問であった。回答者数は486名,回答数は796個。回答者あたり1.6個の回答があった。

##### 4-2 飲酒教育のあり方

回答者が「飲酒教育の必要性」および「飲酒教育開始段階」をどのように認識しているかについての設問が以下の表4(飲酒教育の必要性),表5(飲酒教育開始段階)である。

表1 飲酒者との同席

Q19.「あなたはアルコール飲料を飲んでいる人,あるいは酩酊状態(ひどく酒に酔っている状態)の人と自宅あるいは居酒屋,バーなどで同席したことはありますか?」に対する回答

回 答	回答者数	%
は い	486	81%
いいえ	116	19%

表2 飲酒者に対する意識

Q20.「その場合アルコール飲料を飲んでいる人,あるいは酩酊状態の人に関して,あなたが気になるのは次のうちどのようなことですか?(複数回答可)」に対する回答

	回答者数	%
何も気にならない	134	28%
におい	122	25%
自分への言動	100	21%
他者への言動	216	44%
自分への暴力行為	48	10%
他者への暴力行為	106	22%
その他	70	14%

表3 アルコールの薬物としての認識

Q21.「あなたはアルコールが薬物の一種であると思いますか?」に対する回答

回 答	回答者数	%
は い	225	37%
いいえ	377	63%

##### 4-3 アルコールと運動

本学学生は「運動部」に所属している学生が多く,スポーツを専門的に行っているという点に着目し,参考にした北海道大学の調査に追加して,競技に対する真剣度(Q5),現在の運動習慣(Q6),競技・運動と飲酒節制(Q27),飲酒のパフォーマンスに及ぼす影響(Q28)を調査した。

##### 4-4 自由記載意見

アルコールに関する教育を始める学年(Q23)を選んだ理由(Q24),アルコールに関する経験,感想(Q29)のうち,特記すべき記述を枚举した。

表4 飲酒教育の必要性

Q24. 「あなたは学校教育の中でアルコールに関する教育が必要だと感じますか？」

回答	回答者数	%
はい	518	86%
いいえ	84	14%

表5 飲酒教育開始段階

Q23. 「アルコールに関する教育は次のうちの段階で始めるべきだと思いますか？」に対する回答

回答	回答者数	%
小学校低学年	16	3%
小学校中学年	17	3%
小学校高学年	54	10%
中学1年生	133	26%
中学2年生	32	6%
中学3年生	93	18%
高校1年生	105	20%
高校2年生	21	4%
高校3年生	45	9%
その他	2	0%

4-4-1 アルコールに関する教育を始める学年(Q23)を選んだ理由(Q24)

#### ■小学生選択者

「理解できる年頃だから」「飲酒は上手な付き合い方をすれば害がないということ飲酒に関わる年齢になる前に教えておくべきだと思う」「小さい頃からの教育が大切!」「中学生になる前に知っておくべき、児童期から青年期にかけて行動範囲が広がるから」「あまり低学年ではじめると興味で手を出す。物事の善悪などがわかる、ある程度成熟した発達段階が好ましい」「アルコールの存在を知る頃に教育をした方がいい」

#### ■中学生選択者

「今の子供は心と体の成長の早さが違う。体は未熟なのに心や頭ばかりが先走り大人っぽくなっている」「アルコールに興味を持ち始める年齢であるから吸収しやすいと考える」「義務教育中に済ませた方がいいと思うから」「早くからお酒に手を出してしまうことがないように中学生ぐらいから学んだ

表6 競技に対する真剣度

Q5. 「現在、あなたの競技に対する取り組み方に対してはまるものをマルで囲んでください。」 Q6. 「現在の運動習慣をご記入ください。」に対する回答

	真剣度	週あたり(日)	一日あたり(時間)
平均	6.8	4.2	2.6
標準偏差	2.7	2.0	1.1

表7 競技・運動と飲酒節制

Q27. 「あなたは運動(練習や実技授業)や試合の前日にアルコールを控えますか?」に対する回答

回答	回答者数	%
運動の前日も試合の前日も控える	372	62%
運動の前日は控える	48	8%
試合の前日は控える	156	26%
運動の前日も試合の前日も控えない	21	3%
その他	5	1%

表8 飲酒のパフォーマンスに及ぼす影響

Q28. 「運動や試合前日にアルコールを摂取した結果、パフォーマンスに影響を及ぼした経験はありますか?」に対する回答

回答	回答者数	%
影響を及ぼした経験がない	483	80%
良い影響を及ぼした	11	2%
悪い影響を及ぼした	102	17%
その他	6	1%

方がいいと思った」「はじめるべきは中学生、最後社会に出る前にもう一度くらいはするべき」「自分の周りでは中3ぐらいから飲酒している友人がいたから」「中3の頃からクラスの打ち上げや卒業式の打ち上げなどでお酒が出てくることが多いから」「親や先輩によってアルコールがだんだん身近になってくる年頃」「飲酒教育はある一定の時期以降継続して行うべき」「成人になっていない時のアルコール摂取は脳に良くないと聞いたことがある。なるべく早い段階かつ内容を理解できる年頃」「今は中学生でも高校生でも飲酒をしているのが現状。法律では防ぎきれない影の部分学校教育で呼び掛ける必要がある」「思春期にお酒と出会う機会が多い、大

人への憧れがでてくる」「正しい知識は得るのに早ければ早い方がいいと思うし、お酒の出回りがすく、どこでも手に入るから」

#### ■高校生選択者

「中学から高校に上がると先輩後輩がはっきりしてきて高3ではアルコールに興味をもつ年になり後輩に強要してくる可能性があるから」「大学生になる直前なので」「アルバイトなどで大人と接する機会が増えるから」「高校ぐらいから飲酒をする人が増えるから」「卒業目前で、酒と関わる可能性があるから」

#### ■その他選択者

「大学に入って飲酒の機会が増えるため」

4-4-2 アルコールに関する経験, 感想 (Q29. もしよろしければアルコールにまつわるご経験, ご感想などをご記入ください)

#### ■未成年意見

「自分できちんと自分をコントロールできるなら多少はアルコールを摂取しても構わないと思う。ただ、病気等以外で暴言暴行など他人に迷惑をかける恐れがあるなら飲む・飲ませるべきではないと思う」「コールや一気飲みは良くないと思う」「アルコール摂取の次の日に部活で怪我をした」「お酒によって人格が変わってしまう。だから気をつけなければならない」「はじめて飲んだ時にかなり飲んでしまい、翌々日ぐらいまで体のだるさがとれなかった」「このまま死んだ方がましと思うぐらい嘔吐を繰り返したことがありました。アルハラはだめです」「飲み会や打ち上げの時は自分でキープする。コールがかかったら飲まなきゃいけないというのは怖い」「アルコールは麻薬と一緒にだと思ふ」「はじめてアルコールを飲んだ時、缶チューハイ1本で7回吐いた記憶があり、それからあまり飲めなくなりました」「ストレスが溜まっているときや忘れたいことがあるとき適度に摂取するのは体に悪いことではないし、いいことだと思う」「飲むと顔が真っ赤になるだけで頭はしっかりしています。しかし、私みたいな人もいますがすぐ酔ってしまう人も周りにはいます。そういう人を見ているとそうならないよう

に飲み方に気を付けることが必要だなと思います」「一気に飲むと吐き気があるが、少しずつなら大丈夫。たまになら良いが普段は飲まないのが良い」「疲れていると酔いが回るのが早い、酔うと辛い」「友達が飲んですごく酔って、泣いていて、自分で自分の体を支えられなくて大変だった」「怖い。アルコールで本当に死ぬことがあるんだろうなと思う」

#### ■成人意見

「アルコール依存症の病棟に実習で入った。依存症になるまでになると回復するのに時間がかかると感じた」「部活動の飲み会でお酒を強要されて泣いたことがあります、それ以来お酒を飲みたくないと思いました」「時々飲みたいと強く感じる時もあるし、お酒の席で飲みたくないと感じる時もある」「強要はすべきではないし、断るべきである。急性中毒にならない程度に節度を保って飲酒をするべきである」「飲みすぎると気持ち悪い、程よいくらいがBEST」「今年の春に病院に運ばれました(焼酎ロックをジョッキ3杯、一気飲みをしました)」「飲みすぎて電車を乗り過ごし終電で帰れず、タクシーで帰った」「アルコールを飲むと自分がどういう言動をしているか知らない人がいると思う。普段の性格は普通だが酒癖が悪い人は本当に嫌だと思ふ」「缶チューハイ2本で点滴を打ちました、すきっ腹で飲んだので(大学1年のとき)」「アルコールの大量飲酒で縁石を枕に寝ていた。お酒は怖いと思ふ。早い段階からの指導が必要だと思ふ」「ぼくはお酒が弱いのでたくさん飲めないのが悩みです。あ〜もっと強くなりたい」「酒好きに悪い人はいないと思ふ。酒と上手に付き合って楽しくいきたいと思ふ」「自分のアルコール耐性を知らず、お酒を少し多く飲んだ次の日に体が黄色くなりリンパが腫れてしまった」「飲みすぎは良くない。飲酒運転に関してのニュースを教育すべきだと思ふ」「中3の試合前日、飲酒をしたら翌日のパフォーマンスが低下した」「自分が飲酒でどうこうなったことはないが、いつも人の介抱に回ることが多く、めんどくさいと思ふ。だから、一緒に飲む人を選ぶことが多い」「父が寝ながら嘔吐をした時に詰まって死ぬのでは

ないかと思った経験から、正直酔っている人は死んでしまうのではないかと感じてしまい、怖い。自分自身とてもアルコールに弱いので、少量で後ろに倒れたことがある。その後、意識がなくなった。「先日、高校の時の恩師と飲めたのがとても楽しかった」「私は二日酔いになるのが嫌なので飲みすぎたと思ったときは自ら吐きます」「適度な量を飲んで、次の日、体がすっきりした」「強要されても断りましょう！酒は良くないことがたくさんです」「周りで事故を起こした人がおり、九死に一生だった」「1年生に飲ませるだけ飲ませて寮に後の面倒を押しつけるのはやめていただきたい！寮生が救急車を呼んでもおかしくないくらい酔っているのに『大会が近いから問題を起こしたくない。救急車は呼ばないでくれ』と陸上部の先輩に言われたことがある」「基本的に私は飲み会の席になると看病する側に回ってしまう」「他人が酔っているのを看護するのは面倒だと感じる」「酔っている人は『大丈夫』と言うが実際危険な信号であったり、人によっては体質によってお酒の効果は違うので『お酒を飲むな』ではなく飲み方をきちんと教えるべきだと思う」「新歓で飲みすぎ、寮のメンバーへ大迷惑をかけてしまいました」「吐いた時はもう一生飲みたくないと思うが、ストレスや疲れがたまり、ある程度の仕事が終わった時には飲みたくなります」「友達と飲んだ後フラフラしながら帰宅途中のコンビニのトイレに入った所、3時間くらい意識が飛び、気がついたら家に向かって歩いていて」「成田駅で酩酊状態で立てなくなって泣き崩れている女性を見た時、一人でどうしたんだろうとびっくりしながら見てしまった。その後、知らないおじさんに終電に無理やり乗せられていた」「お酒は苦手。信頼できる友人となら飲んでもいい(幼い頃に水と間違えて飲んで少し怖くなった)」「たくさん飲まされてたくさん吐きました次の日気持ち悪かった」「健康大学なのに酒を強要するなんていかれてるんじゃないかと1年の時の新歓で感じた」「アルコールの悪い経験もあるが良い経験はもっとあった。一時中毒のようになったが現在はやめられた」「他人への迷惑が一番悪い。酔ってハ

イテンションになった人を介抱するのは大変。加減するか注意を」「自分のブロックでは吐くまで飲ませるのが普通。競技がしくて入学したのに意味がわからない」「酒の場で飲まない方がおかしいという雰囲気あり。新歓でつぶれた人の面倒を寮に押しつけられた」「アルコールパッチテストは信頼性に欠ける。反応が全くなかったが自分は親同様、弱い体質だ」

## 5. 考 察

以下に結果 4-1 から 4-3 に対する考察を加える。

### 5-1 アルコールへの意識

今回の無記名アンケートの回答者となった本学学生602名の飲酒経験を概観してきたが、彼らの身近にある「酒」というもの、そして「飲酒をしている人」をどのように認識しているのだろうか。回答者の8割を超える者が「アルコール飲料を飲んでいる人、あるいは酩酊状態の人と自宅あるいは居酒屋、バーなどで同席したことがある」と答えている。彼らが飲酒中の同席者について最も気になることは表1で確認できるように「他者への言動」(44%)である。「自分への言動」が気になるという回答(21%)の2倍以上の数値となった。これは、先の北海道大学の調査でも「他者への言動」を選択した学生が一番多く(40%)、「自分への言動」(19%)の2倍以上の数値であった<sup>1)</sup>。「他者への言動」を気にする背景として考えられることは、酒の場において、自分に向けられた言動であれば「お酒の上でのこと」と割り切ることができるが、それが自分以外の他者に向けられた場合、他者が割り切ることができるかどうか心配になるからではないか、ということである。「その他」の意見で多くみられたのは「嘔吐するのではないか」や「急性アルコール中毒になるのではないか」、「体調がどうであるか」などの飲酒者を気遣う回答であった。

しかし、飲酒による言動や暴力に対する危険性を認識していながら、「あなたはアルコールが薬物の一種だと思いますか」という問い(Q21)に対しては、「はい」を選択した回答者は37%と、事実認識

ができていない学生が多くいることが判明した。これは、半数以上が「はい」を選択した北海道大学の学生と比較しても低い数値である。こういった問題意識の欠如は、回答者の受けてきた飲酒教育が原因ではないかと考えることができる。

### 5-2 飲酒教育のあり方

現在、日本における飲酒についての教育は、中学校では保健体育・保健分野・健康な生活と疾病の予防(ウ 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康)<sup>2)</sup>というカテゴリー, 高等学校では保健体育・保健・現代社会と健康・健康の保持増進と疾病の予防(イ 喫煙, 飲酒と健康)というカテゴリー<sup>3)</sup>でわずか数行, 取り上げられているだけである。

本学では入学後1年が全寮制であり, スポーツ健康科学部と医学部の学生が共同生活を送る。大学1年という年齢は未成年と成年が混在しており, 今のところ, 実際的には寮での飲酒が禁止とはなっていない。しかし, その中でも寮独自のルールを作り, 健康大学として恥じない飲酒の仕方を模索しているという。本学で飲酒による「事故」が少ないことも, 寮で生活する上でのルールに起因するのではないかと推測することもできる。そういった意味で教育寮である啓心寮の存在意義は大きく, 本学学生への飲酒教育の一端を担っているといえる。

しかし, (表3)で示唆した通り「アルコールが薬物の一種である」という点に関して, 本学学生の認識はとても低い。アルコールに関する教育が必要と考える回答者が86%という数値からみても, 学校教育の中で今まで以上に「飲酒」についての教育を施していくべきではないだろうか。寮での教育の一環として, 「アルコールについての教育」をする機会を設け, 「飲酒」に関する意識改革をしていく必要がある。

### 5-3 アルコールと運動

この項目は, 本学学生がスポーツを専門的に行っているという点に着目し, 参考にした北海道大学の調査に追加して行ったものである。表6ではアンケート対象者の運動への取り組み方や運動頻度が読み取れる。他大学での生活実態調査によると, 運動

を「毎日」および「ほとんどいつも」している学生は僅か14%であったり<sup>3)</sup>, 運動系の部活動に所属する学生が僅か11%であったりする<sup>4)</sup>。この数値と比較して, 平均で週4.2日, 一日あたり2.6時間運動している本学学生は運動頻度が高いといえるであろう。運動頻度の高い本学学生であるからこそ, 「酒」に対して特別な意識があるのではないかと考え, 用意した質問の結果が表7(Q27. あなたは運動(練習や実技授業)や試合の前日にアルコールを控えますか?)表8(Q28. 運動や試合前日にアルコールを摂取した結果, パフォーマンスに影響を及ぼした経験はありますか?)である。表7から確認できるように, 運動の前日及び試合の前日に飲酒を控える傾向にある者は96%に上った。そのうち, 「運動の前日も試合の前日も控える」選択者は62%を占めた。一般的に, 運動よりも試合に重点を置く場合が多いと考えられるが, この問いの結果でも「運動前日は飲酒を控える」が8%に対し, 「試合前日は飲酒を控える」が26%と3倍以上の回答者が試合前に飲酒を控えるという傾向が読み取れた。「運動前日は飲酒を控える」を選択した者の中には, 「競技をしていないので試合がない」という者や, 「試合の前日に少量摂取したら4試合連続で自己ベストがでた」という者があった。表27では飲酒が競技パフォーマンスにどう影響するかを調査したもののだが, 表7での回答の通り, 運動や試合前に飲酒を控えている回答者が多く, 「影響を及ぼした経験がない」を選択する者が8割であった。影響を及ぼした経験がある者のうち, 「良い影響を及ぼした」者は2%, 「悪い影響を及ぼした」者は17%であった。中には「中3の試合前日, 飲酒をしたら翌日のパフォーマンスが低下した」という者もおり, 飲酒による競技パフォーマンスは低下する傾向にあるといえる。

### 5-4 自由記載意見

アルコールに関する教育を始める学年を選んだ理由(4-4-1)について多かった意見は, どの段階においても「お酒に興味をもち始める頃だから」という意見であった。中学生を選択する回答者が多かったが, その理由として目立った回答は, 義務教育

である期間中に全員が受けるべきであるとするものだった。今回の設問の方式は教育の開始段階を問うものであったが、「飲酒教育はある一定の時期以降継続して行うべき」との意見もあった。

アルコールに関する経験、感想(4-4-2)については、自分自身の経験を基にした意見や、自分の周囲の誰かに関する意見が寄せられた。飲酒について、「善」とする意見より「悪」とする意見の方が多い印象があった。中でも、クラブ活動に所属する者の意見として「自分のブロックでは吐くまで飲ませるのが普通。競技がしたくて入学したのに意味がわからない」や、「部活動の飲み会でお酒を強要されて泣いたことがあります、それ以来お酒を飲みたくないと思いました」など、部活動での飲酒状況についての「悪」の意見があったのは運動部の多い本学での調査ならではだと考えられる。また、「新歓で飲みすぎ、寮のメンバーへ大迷惑をかけてしまいました」や、「酒の場で飲まない方がおかしいという雰囲気あり。新歓でつぶれた人の面倒を寮に押しつけられた」など、新入生歓迎会でハメを外すという大学生特有の意見もみられた。この項目の回答者を未成年者と成人に分けて記載したが、未成年であっても飲酒によって「悪」の体験をしていることは見逃せず、問題意識を持って改善する必要があると考える。

## 6. 結 論

日本において、未成年者の飲酒は認められていない。しかしながら、飲酒という行為は未成年の学生も数多く在籍する日本の大学において、学生生活の一部となっているといっても過言ではない。順天堂大学スポーツ健康科学部全学生を対象として、無記名アンケート「飲酒に関する大学生の意識調査」(眞崎睦子:北大生101人と飲酒:「飲酒に関する大学生の意識調査」(2007年)北海道大学大学院教育学研究院紀要103巻掲載のアンケート調査用紙を改変)を用い、飲酒経験、飲酒強要・被強要、飲酒教育、アルコール体質、運動頻度などを調査した。回

収713枚、回収率1年生69%、2年生35%、3年生40%、4年生38%であった。競技スポーツを日常的に行っている本学学生は、定期的に飲酒をする者は他大学での調査に比べて少ないものの、飲酒を「強要をされた」57%、「強要した」22%のどちらにおいても他大学での調査(45%、14%)より高い値を示していた。これは、「酒の場」の多くがクラブ(運動)部活動の延長であり、クラブ(運動)部における先輩後輩の上下関係のあり方と関連する強制飲酒を許容する風土が存在している可能性が高いことを示唆する。そのような経験から「飲酒」を「悪」とする感情をもつ学生も少なくないこともこの調査で明らかになった。この現状をふまえて、飲酒における教育が必要と考える学生も多く、大学を挙げての飲酒教育を行うことが健康大学としての本学の本来のあり方ではないかと考える。この調査がその必要性の一端を明らかとしたことを確信している。

## 7. 謝 辞

本調査をご許可賜りました前学生部部長(久保田洋一先生)、前啓心寮総寮監(中島宣行先生)、学生相談室室長(廣澤正孝先生)に深謝致します。また、回答者の方々およびアンケート配布・回収にご協力下さりました、健康管理室乙丸知子看護師、啓心寮係員根岸隆介様、スポーツ健康科学部ゼミナール担当の諸先生に深く感謝の意を表します。

## 8. 参考文献

- 1) 眞崎睦子(2007)北大生101人と飲酒:「飲酒に関する大学生の意識調査」.北海道大学大学院教育学研究院紀要, 103: 113-126.
- 2) 文部省:中学校学習指導要領解説 保健体育編, 東山書房.
- 3) 文部省:高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編, 東山書房.

(平成22年9月2日 受付)  
(平成22年10月28日 受理)